

令和4年度志木市立志木中学校 第1回 学校運営協議会議事録

1 開催日時 令和4年4月19日（火） 10:50～12:40

2 場所 志木市立志木中学校 視聴覚室（途中、授業参観）

3 出席者

山崎 徳生	木下 武三	村田 啓吾	中村 和子
飯田 寛	渡邊 和枝	林 資子	安部 洋子
佐藤 康治	本 荘 真	—	—

（計 10名）

【事務局 進行・記録 高橋 俊浩】

4 協議内容

(1) 令和4年度学校経営方針について

○タブレット端末を使った授業は具体的にどのように活用しているのか。

→これまでのワークシートを使った授業と同様のことがオンラインでできる。課題の配布・回収などができる。調べ活動やプレゼンテーション作成、動画撮影・編集など様々な活用例がある。

○タブレット端末はどれくらいの頻度で活用するのか。

→頻繁に使っているが、タブレット端末はあくまでも道具（手段）として教育活動の内容に合わせて使用している。頻度を決めて使用していない。

○学校課題研究（防災教育）について、どのような取組を行うのか。

→防災マップづくり、避難所開設、合同避難訓練等を計画している。

○合同防災訓練への参加、避難所開設など、中学生が地域の中で自立して生きていけるように充実させていきたい。

→そのように取り組んでいく。

○「チーム志木中」とは具体的にどのような取組があるのか。

→「チーム」であることの重点として、教職員間の関係づくりがある。個々の思いや悩みを共有できる学校経営を目指している。個々の良さを認め合い、協働できる教職員による学校を目指していく。

(2) 地域人材の活用について

○部活動指導補助が進まない理由はどこにあるのか。

→まず、予算面の課題がある。また、部活動指導補助員と生徒との間でトラブルが生じる事例もある。今後、学校が市教委と連携して取り組んでいくべき課題でもある。

○地域人材を活用するにあたって、誰でも良いという訳ではない。地域で信頼され、推薦されるような人物を探した方が良いのではないか。

→その通りである。

- まずは、人材バンクとして学校応援団のリストがあった方が依頼しやすい。登録したからと言って必ず声をかけなければならない訳ではない。
 - チラシを活用して登録を促していく。
- 学校応援団募集のチラシについて、活動頻度を記入させた方がよいのではないか。
 - ホームページ作成支援や環境整備を除くと、活動内容を踏まえても定期的な活動が想定しづらい。
- （小中一貫教育推進と関連して）学校運営協議会は近隣三校で横断的にする計画はあるのか。
 - 今後、数年のうちに実現するものとする。
- 志木中単独で応募チラシを配布するのではなく、学区全体で小学校を巻き込んで進めた方がよい。
 - 小中一貫教育推進に向けた会議が1学期中にあるので、各校と調整を図り実現する。